

## || 編 || 集 || 後 || 記 ||

旭川医科大学研究フォーラム第10巻1号をお届けします。本号では査読済み投稿論文が2編、依頼論文4編、依頼稿として「独創性のある生命科学研究」プロジェクトの研究報告が19編、JICAの研修報告が2編、エッセイ、学界の動向、学生のページ、書籍紹介、旭川医科大学回顧資料などの内容となっています。お忙しい中、ご執筆くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、本号は第10巻ですので創刊から10年目ということになります。これを機会に、本誌の刊行目的、刊行に至るまでの経緯を振り返ってみました。詳細は創刊号の編集後記で当時の編集委員会副委員長の近藤先生が述べておられますが、査読制度のある全学的規模の学術雑誌を刊行すべき、という教授会の決定に沿い編集委員会が発足し、編集方針の決定があったようです。査読済みの投稿論文の他、ベテラン専任教員による研究内容などの総説論文、教育関係の提言、報告をまとめた依頼論文の掲載を根幹として編集することが当時から決められていて、基本は本号にも引き継がれています。所期の刊行目標からしますと、投稿論文のさらなる増加が望まれます。多くのご投稿をお願い申し上げます。

(H.H)

### 表紙解説

今号の表紙作成にあたり、あるアイデア (idea) が浮かびました。細胞分裂していく過程の様相 (有糸分裂) を、染色体に見立てた講座名群によって描くというものです。生物の系統樹は、細菌 (真正細菌)・古細菌・真核生物の3系統よりなり、生命の始まりの時期から伝えられてきた遺伝情報は染色体中のDNAに埋め込まれてきました。また、単細胞生物・多細胞生物、いずれも生物の個体は最初の一つの細胞の分裂によって形成され、その中に詰まった遺伝情報がコピーされて、新しい細胞に伝えられていく。しかも、その遺伝情報は全ての生物にとって、読み取り可能というのは、驚きです。ここ数十年におけるコンピュータの進化の過程で私達が経験してきた、「以前使用していた記録メディアが、新しいパソコンでは読めない。」、すなわち磁気テープ、フロッピーディスク、光磁気ディスク (MO)、USBメモリの様な情報蓄積・伝達メディアの変遷が、数十億年にわたってなかったということです。このことは、原始の記憶 (遺伝情報) の上に、更に数多の世代の記憶が重なってきたということを意味しています。(THE CELL 細胞の分子生物学、参照)

アイデア (idea) という言葉が、ギリシャ哲学の世界で用いられていた「アイデア」が語源であり、その時代の学校が「アカデメイア Akademeia」と称されていたことに想いを巡らせながら今号の表紙を見つめると、講座名群が互いに感応しあいながら新しい命を生み出そうとしている鼓動が、そこから聞こえてくるのでした。

整形外科学講座 今井 充